

データ出稿前の最終チェックシート

印刷会社・デザイン会社などに印刷用データを渡す前に、最低限下記項目の最終チェックをしましょう。

内容の最終確認は済みましたか？

基本的に印刷が始まるとデータの修正はできません。別途追加料金を支払う事になる可能性が高いです。出稿前のデータチェックは必ず行うようにしましょう。特に金額や連絡先など、絶対に間違えてはいけない箇所については特に念に確認しましょう。

カラーモードはCMYKになっていますか？

印刷は通常「CMYK」4色のインクを使用することで様々な色を表現しています。「RGB」など異なるカラーで作成されたデータはCMYKに変換して印刷されます。その際、色調が大きく変わってしまうことがあります。予期せぬ事態を防ぐためにもデータは「CMYK」で作成しましょう。

データの仕上がり寸法は正しくできていますか？

作成したデータは正しい仕上がりのサイズになっていますか？念のため最終の確認を行いましょう。デザインによってはサイズに数mmの誤差があるだけで印象を大きく左右してしまう場合もあります。

テキストはアウトライン化しましたか？

パソコンごとにインストールされている書体が異なります。環境にない書体が使用されていると、自動で書体が置き換わって表示されてしまいます。それによりデザインの印象が大きく変わったり、レイアウトが崩れてしまうことがあります。テキストには必ずアウトラインをかけて出稿するようにしましょう。

※自社保存用にアウトライン前のデータを必ず残しておきましょう。

使用する画像はすべて出稿フォルダ内に入れましたか？

illustrator上で配置(リンク)した画像は、リンク元であるillustratorのデータが保存されているフォルダと同じフォルダ内に保存しておく必要があります。出稿時に画像の名前を変更したり、保存している場所が違うと【リンク漏れ】を起こし、画像が表示されなくなってしまうので注意しましょう。

塗り足しは作りましたか？

印刷後の仕上げ工程として、指定寸法への「断裁」を行います。この断裁工程の際、1mm～最大3mm程度のズレが生じる事があります。これにより、背景色の印刷されていない白い部分が出てしまう事があります。対処法として、紙面全体に背景として色や画像などを配置している際は、紙端から外側に3mmはみ出させて作成しましょう。この部分を「塗り足し」と言います。

紙端から3mm以上の余白は確保していますか？

塗り足しと同様、断裁のズレを考慮するためのものです。紙端ギリギリに重要な文字などを配置すると、断裁時のズレで文字を切り落としてしまう可能性があります。外側に3mm・内側にも最低3mmの余裕を持って作成するようにすると安心です。

すべてにチェックが入れば、データに問題のある可能性は低いでしょう。制作作業お疲れ様でした。